

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター 平成28年度 年度計画

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として特に担うべき医療

【目標値】

項目	平成 28 年度目標値	
	市民病院	せのお病院
救急患者数	21,000 人	1,500 人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	80.0%	38.0%
手術件数	3,200 件	50 件

(関連指標)

項目	市民病院実績		せのお病院実績		
	25 年度	26 年度	25 年度	26 年度	
救急車搬送受入件数	3,663 件	4,190 件	234 件	164 件	
救急からの入院患者の割合	16.1%	16.2%	—	8.6%	
入院患者数	がん	1,282 人	1,313 人	1 人	3 人
	脳卒中	385 人	403 人	3 人	1 人
	急性心筋梗塞	28 人	19 人	1 人	—
	糖尿病	132 人	152 人	—	—

(1) 市民病院

救急医療など市民に必要とされる医療，がん，脳卒中，急性心筋梗塞，糖尿病など高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに，地域の医療機関等と役割分担や連携を促進し，市民の生命と健康を守る。

ア 救急車応需に関しては現時点で，救急車不応需となる原因は①ERでのマンパワー不足，②三次救急，③小児救急，④透析患者などである。新病院となり，精神科常勤医師が勤務するようになり，精神科救急の問題は減少した。マンパワー不足の解決策として，救急医師の確保と救急医師以外の勤務体制の見直しを考える。三次救急を応需できていないことの解決策の一案として，当院が三次救急になるという方法が考えられるため，その要件などを調査し，検討を続ける。小児救急に関しては小児科医師の指導の下，小児診療のレベル向上に努める。透析患者に関しては昨年度も徐々に透析

の実績が増加しており、データ収集し、更に増加を目指す。

ウォークイン患者に関しては患者が診療をスムーズに受けることができ、満足される救急を目指す。守衛・受付を含めたサービス向上を目指す。

看護師に関してはトリアージ能力を高めることで、患者の優先順位を考える習慣を身につける。

当院救急車（モバイル ER カー）を利用した患者を迎えに行くサービスを開始する。

イ 感染症医療について、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を常時受け入れられる体制を維持するとともに、二類感染症、新型インフルエンザ等の感染症発生時には、岡山県・岡山市との連携下に、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。

ウ 昨年度に災害拠点病院の指定を受け、災害派遣医療チーム（DMAT）を結成した。今年度も災害医療研修、災害医療救護訓練を積極的に実施し、災害発生時に迅速に派遣・受入対応ができる体制を整備する。また、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料などの備蓄や諸設備の維持管理を行う。

エ 小児・周産期医療について、安心して子どもを産み育てられる医療を提供するため、小児医療においては、小児専門診療及び小児救急対応の充実を図るとともに重症疾患等は高度・専門医療機関に搬送するなど地域医療機関との連携をすすめる。また、周産期医療においては、産婦人科医師・助産師のさらなる増員をはかるとともに、ハイリスク妊婦等は高度医療機関に搬送するなど周産期医療においても地域医療機関との連携をすすめる。

小児科、産婦人科において、職務に必要な情報収集・資格取得のため幅広い研修会・学会等への参加機会を持つとともに、院内での研修会を実施する。

オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、診療体制を充実させ、市民に必要とされる医療、市内の医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に継続して努める。法令の改定や地域医療体制の変化にも柔軟に対応していく。

カ 高度専門医療

[がん]

がん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行う。手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供し、さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携して診療を行う。がん緩和ケアなどの充実を図る。また、市民に対しても公開講座などによりがんに対する啓蒙を図る。

[脳卒中]

新市民病院において整備された IVR センター、SCU を効果的に活用し、より多くの重症患者を積極的に受け入れ、早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の医療機関と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。

[急性心筋梗塞]

重症患者を積極的に受け入れ、治療までの時間を最大限短縮するシステムを構築

する。治療後は早期の急性期リハビリテーションを実施し、地域の回復期リハビリ施設と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。外科的治療や高度専門医療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携して診療を行う。

[糖尿病]

診断等の初期診療から合併症を伴う急性増悪時における治療まで、専門診療体制により対応する。安定治療期間においては、地域の医療機関と連携して、患者の健康を管理する。

(2) せのお病院

市内の高度専門医療を担う病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と密接に連携するとともに、周辺地域の中核病院として医療を提供することにより、市民の生命と健康を守る。

ア 周辺地域の初期救急患者を可能な限り受け入れる体制を維持するとともに、市民病院を含む地域の高度医療機関と連携した医療を提供する。

イ 周辺地域を中心とした市民に必要とされる医療を引き続き提供するとともに、必要な人員の体制を維持する。

ウ 市民病院をはじめとする地域の高度医療機関で一次治療を受けた患者を受け入れる後方支援の役割を果たす。

平成 28 年度は常勤の内科医 1 人と MSW1 人が配置されることから、高度医療機関等との連携を密にして、増床も含めた地域包括ケア病床の充実を図る。

エ 地域の公民館との連携による健康支援講座を開催するとともに、西ふれあいセンターとの連携による在宅サービス支援を行う。

オ 災害に備え、応急医療資機材や応急用医薬品を備蓄する。災害発生時には市民病院をはじめとする地域の医療機関と連携し、医療救護活動を行うとともに、地域の拠点としての避難場所を提供する。

2 医療の質の向上

(1) 安全・安心な医療の提供

ア 医療におけるインシデント・アクシデントの予防及び再発防止に努める。このため、インシデント・アクシデント情報の収集・分析を行い、フィードバックすることで、全職員の医療安全に関わる知識の向上に資する。また、医療安全に関する研修、講演会等を企画運営する。

イ 患者に対して、薬剤師による薬剤管理指導、管理栄養士による栄養食事指導・相談について一層の充実を図る。また、薬剤管理については早期での病棟薬剤実施加算の実施を目指す。

ウ 院内感染の発生防止や蔓延阻止のため、院内感染対策委員会を定期的に開催する。

また、全職員の院内感染に関わる知識や技術の向上を図るため、職員の研修への積極的な参加を促すとともに院内感染対策に関するマニュアル類を必要に応じて見直す。

エ 個人情報保護、コンプライアンスに係る研修を通して、職員の行動規範と倫理について継続的に周知を図り、徹底する。また、個人情報保護マニュアルも、適宜見直していく。

なお、カルテなどの個人情報の保護及び情報公開に関しては、市の条例に基づき適切に対応する。

(2) 診療体制の強化・充実

医師、看護師など医療従事者を多数確保し、各科専門領域の強化、総合診療の充実をより一層図っていく。

日々の診療で行っているカンファレンスとは別に多職種横断的な症例研修会を積極的に実施し、医療の質の向上を図る。

NSTをはじめ多職種で構成されるチーム医療を積極的に行うために、多職種向けの勉強会を多数実施し、医療現場での連携強化と提供する医療の質の向上を図る。

【目標値】

項目	平成 28 年度目標	
	市民病院	せのお病院
院内における多職種での症例研修会実施回数	40 回	6 回

(3) 医療の標準化の推進

ア 医療の質や患者サービス向上のため、整備した総合情報システムについて、職員の要望、必要性に応じて機能追加、カスタマイズ等を行う。

また、せのお病院の電子カルテ導入について予算措置、平成 29 年度導入のための実施計画に入る。

イ 多職種共同で主要な傷病のクリニカルパスの作成を進めることで医療の標準化を進める。バリエーション分析を行うため、アウトカムとその評価基準であるアセスメントの整備を進める。パス種類数、使用率を医療の質の指標 (QI:クオリティインディケーター) として使用する。以上のことを検討するため、基本的に月 1 回、クリニカルパス委員会を定期的を開催するとともに、クリニカルパスを評価し、医療の質を改善させるため、年 4 回程度のクリニカルパス大会を開催する。

【目標値】

項目	平成 28 年度目標
クリニカルパス種類数	89

(4) 調査・研究の実施

岡山大学を中心に他の医療機関との共同研究を含め、新しい治療法の開発等に貢献す

る臨床試験に積極的に参加する。また新薬の開発を目的とした企業治験を積極的に推進し、医療の進歩に貢献する。可能なものについてはその成果をもとに学会発表や研究論文として発表する。新薬の市販後調査にも協力し安全性の向上に寄与する。

3 市民・患者サービスの向上

(1) 患者中心の医療の提供

ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。

院内の医療相談窓口機能について検討する。

イ 患者満足度調査について、入院患者及び外来患者に対して実施するアンケートの結果から、患者ニーズの把握及び改善に取り組む。

【目標値】

項目	平成 28 年度目標
患者満足度調査結果 (満足+やや満足)	80%

ウ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、医療 ADR などの裁判外紛争解決システムや医陪責のセカンドオピニオン等を有効に利用し、円滑かつ円満な解決に努める。

(2) 職員の接遇向上

患者満足度調査における接遇項目の評価から問題点・課題を抽出し、職員の接遇向上のための研修会を計画的に開催する。

(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信

患者やその家族、市民に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等についてホームページや広報誌等を活用してわかりやすく発信する。

4 地域医療ネットワークの推進

(1) 地域医療連携の推進

急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供するため、岡山大学をはじめとした地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進するとともに、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図る。

市民病院は、脳卒中、大腿骨頸部骨折など地域連携クリティカルパスの適用を推進するとともに、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）への参加による診療情報の開示及び

閲覧により、地域医療機関との連携をより一層推進する。

【目標値】

項目	平成 28 年度目標	
	市民病院	せのお病院
紹介率	50%	30%
逆紹介率	70%	35%
地域連携クリティカルパス適用件数	200 件	—

(2) 地域医療への支援

ア 地域の医療機関を支援し、在宅医療の推進に向けた顔の見える関係の構築を推進するため、オープンカンファレンスを開催する。

市民病院は、地域医療支援病院として地域の医療機関に対する開放病床や検査機器等の共同利用を促進する。

【目標値】

	市民病院	せのお病院
地域医療機関の参加する講演会開催数	25 回	4 回

イ 医師不足の深刻な地域の医療機関に対して医師を派遣するなど人的支援に努める。

5 教育及び人材育成

(1) 教育・人材育成の強化

岡山大学と共同し、市民病院を臨床研究の場として活用する寄付講座により地域医療に関する研究教育を行うとともに、市民病院で総合診療を行う医師が、その臨床実績を岡山大学で分析研究する実践総合診療学分野での連携大学院により人材を育成する。

教育研修体制の整備について、教育研修センター及び専任担当者の設置について検討する。

研修医や医学生に対して日常の診療カンファレンスとは別に研修会を実施するとともに、看護師や救命救急士等の実習生を積極的に受け入れる。

【目標値】

項目	平成 28 年度目標
大学の研修医・医学生の研修受け入れ要請に対する応需率	100%
研修医・医学生への研修会実施回数	8 回

6 保健・医療・福祉連携への貢献

(1) 保健医療福祉行政への協力

市が主催する「顔の見えるネットワーク構築会議」など保健医療福祉関係団体等との連携会議へ参加する。

(2) 疾病予防の取り組み

市民に対して、病院内外で健康支援講座を定期的を開催するとともに、健康支援に係る相談に応じる。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の構築

(1) 業務運営体制の構築

独立した経営体にふさわしい法人組織を構築するとともに、理事長のリーダーシップのもと、院内委員会等の体制を整備し、情報と権限を一元管理することにより、迅速な意思決定と効率的な運営を行う。また、迅速な情報の伝達・共有を可能にするシステムを確立し、組織として経営企画機能を強化して、経営基盤を構築する。

(2) 多様な人材の確保

医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努める。

医療従事者については、大学等関係教育機関との連携や採用のための広報活動をこれまで通り継続するとともに、臨床研修医及び後期研修医の育成に取り組む。

事務職員については、病院経営に関する知識・経験を有する人材を計画的に採用する。

育児支援や職場復帰に関わる制度など職員が働きやすく復帰しやすい環境を整えるとともに、退職者の活用など多様な人材を活用できる体制を整備する。

(3) 外部評価等の活用

公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価結果に基づき、業務運営の改善に向けて取り組む。

監事と会計監査人の連携、役割分担により、監事による会計監査及び業務監査、会計監査人による決算等監査を実施し、監査結果や助言に基づき、中期計画期間最終年度に向けて内部統制のための基盤を強化する。

2 職員のやりがいと満足度の向上

(1) 研修制度の充実及び資格取得への支援

専門性の向上に向けた研修制度や職員の資格取得を奨励する制度について検討する。

臨床研修指導医，専門医，認定医，認定看護師及び認定薬剤師などの資格取得を促進する。

【目標値】

項目	平成 28 年度目標
臨床研修指導医数	37 人

(関連指標)

	26 年度実績
臨床研修指導医割合	52.6%
専門医	91 人
認定医	54 人
認定看護師数	9 分野 11 人
認定薬剤師数	5 人

(2) 適正な人事評価制度

これまでの岡山市を踏襲した人事評価制度から地方独立行政法人としての独自性のある，かつ病院として医療現場に馴染むような人事評価制度に刷新する。新制度においては，業績評価，能力評価による職員の能力開発，人材育成を目的とし，評価結果に基づき適材適所に向けた職員配置に活用するための人事評価制度を構築する。

(3) 職場環境の整備

医療スタッフが診療業務に専念できる職場環境の一層の整備に向けて，各所属長に対して労務管理の基礎研修の実施，院内保育のさらなる充実等職員満足度の向上を目指す。また，女性の活躍躍進に向けて女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画を策定する。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 持続可能な経営基盤の確立

運営費負担金は，公的に必要とされる医療を安定的に提供することによる不採算経費等として，救急医療，感染症医療，小児医療など総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方により算出する。

建設改良費及び長期借入金の元利償還金に充当する運営費負担金については，経常費助成のための運営費負担金とする。

各診療科・部門を対象とした行動計画の作成による目標管理制度を導入するため，目標達成に向けた具体的な活動，職員の能力開発等プロセスや体制も重視しながら PDCA サイクルによる経営体質を確立できる仕組みを構築する。

2 収入の確保及び費用の節減

1の目標管理制度の導入の検討に加え、行動計画の進捗管理を行うため、DPCデータ等を活用して診療情報分析を行い、その結果を各診療科・部門へ反映する手法について検討する。また、部門別原価計算などの管理手法を用い、各診療科・部門の実績を評価する環境の構築に向けて準備を進める。

病床稼働率や平均在院日数の適正水準の維持を前提に、予算の弾力的な運用や多様な契約手法の導入など、地方独立行政法人のメリットを生かし医療サービスの質の維持・向上を図りながら、費用の節減・合理化を図るよう努める。

【目標値】

項目	平成28年度目標	
	市民病院	せのお病院
病床稼働率	82.3%	83.1%
平均在院日数	14.5日	20日
経常収支比率	96.2%	108.2%
医業収支比率	87.8%	88.2%
給与比率	57.1%	70.7%

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

1 新市民病院の整備

新病院開院を無事迎えることができたことに伴い、今後はハード面においては、患者の療養環境の維持管理、向上に努める。

また、ソフト面においては、これからの新市民病院を担っていく多様で優秀な人材の確保に努めるべく、事務職員については、病院経営に関する知識・経験を有する人材を計画的に採用する。

さらには、育児支援や職場復帰に関わる制度など職員が働きやすく復帰しやすい環境を整えるとともに、退職者の活用など多様な人材を活用できる体制を整備する。

2 医療福祉戦略への貢献

新市民病院の隣接地に市が導入準備作業中の総合福祉の拠点が担う健康・医療・福祉系機能や施設と協力しあうとともに、市が推進する医療福祉を核としたまちづくり（医療福祉戦略）へ貢献できるように努める。

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（平成28年度）

（単位：百万円）

区分		金額
収入		12,925
収入	営業収益	12,390
	医業収益	11,162
	運営費負担金収益	1,187
	その他営業収益	41
	営業外収益	245
	運営費負担金収益	133
	その他営業外収益	112
	臨時利益	0
	資本収入	290
	長期借入金	290
運営費負担金収入	0	
その他資本収入	0	
その他収入	0	
支出		12,742
支出	営業費用	11,322
	医業費用	11,247
	給与費	6,498
	材料費	2,617
	経費	2,099
	研究研修費	33
	一般管理費	75
	営業外費用	234
	臨時損失	0
	資本支出	1,186
	建設改良費	290
	地方債償還金	896
	その他資本支出	0
	その他支出	0

（注） 期間中の診療報酬の改定，給与の改定及び物価の変動等は考慮していない。

【人件費の見積り】

期間中総額 6,566 百万円を支出する。

なお、当該金額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当する。

2 収支計画（平成28年度）

（単位：百万円）

区分		金額
収入の部		12,883
収入の部	営業収益	12,646
	医業収益	11,128
	運営費負担金収益	849
	資産見返運営費負担金戻入	423
	資産見返受贈額戻入	208
	その他営業収益	38
	営業外収益	237
	運営費負担金収益	133
	その他営業外収益	104
	臨時利益	0
支出の部		12,921
支出の部	営業費用	12,687
	医業費用	12,612
	給与費	6,433
	材料費	2,423
	経費	2,365
	減価償却費	1,361
	研究研修費	30
	一般管理費	75
	営業外費用	234
	臨時損失	0
純利益		▲ 38
目的積立金取崩額		0
総利益		▲ 38

（注） 期間中の診療報酬の改定、給与の改定及び物価の変動等は考慮していない。

3 資金計画（平成28年度）

（単位：百万円）

区分	金額
資金収入	16,550
業務活動による収入	12,635
診療業務による収入	11,162
運営費負担金による収入	1,320
その他業務活動による収入	153
投資活動による収入	0
運営費負担金による収入	0
その他投資活動による収入	0
財務活動による収入	290
長期借入金による収入	290
その他財務活動による収入	0
前年度からの繰越金	3,625
資金支出	16,550
業務活動による支出	11,556
給与費支出	6,566
材料費支出	2,617
その他業務活動による支出	2,373
投資活動による支出	290
有形固定資産の取得による支出	290
その他投資活動による支出	0
財務活動による支出	896
長期借入の返済による支出	622
移行前地方債償還債務の償還による支出	274
その他財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	3,808

第6 短期借入金の限度額

1 限度額 300百万円

2 想定される短期借入金の発生理由

建設工事，医療機器等購入等による一時的な資金不足への対応

第7 重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画

なし

第8 剰余金の使途

決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備や修繕，医療機器の購入，教育や人材育成の充実等に充てる。

第9 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画

(百万円)

施設及び設備の内容	予定額	財源
病院施設，医療機器等整備	290	岡山市長期借入金等